

## ベルリン自由大学 留学体験記

学類・学年：日本語・日本文化学類 3年

留学先：ベルリン自由大学(ドイツ)

留学期間：1年間（2012年9月～2013年8月）

### 1. はじめに

2012年度秋学期から2013年度春学期の一年間、ベルリン自由大学へ留学していました。筑波大学からベルリン自由大学へ留学を考えている皆様に何か少しでもお力になれることがあれば、と思い書かせていただくことになりました。

私は2年次からの留学という事で語学力に大きな不安があったのですが、このタイミングで行って良かったと思っております。メリットとしては卒論や就活が同期と同じタイミングで始められ、4年間で卒業可能なこと（ただし自分は教職科目を受講しているため留年しますが、単位数えたら十分4年で卒業出来る状態でした）。デメリットとしては、語学力に大きな不安があった事です。また3年次からの留学だとある程度将来について考えがまとまっていて、卒論についても意識して勉強できると思うのですが、自分はまだゼミも決まっていない状態でしたので、留学中に興味があっちこっち移ってしまいました。

### 2. 準備について

出来るだけ早く留学したかったので、筑波大学に入学してすぐ(5月半ばくらいには)相澤先生に連絡を取り、準備を始めようと思ったのですが…なんと相澤先生はボンへ一年間の出張中でした。12月に一時帰国された際に一度お会いし、必要な書類等を教えていただいて準備を進め、翌年4月に書類を提出しました。ベルリン自由大学留学のための書類送付期限は4月半ばだったと思うので、それに充分間に合うように準備していけばいいと思います。詳しくはこちら→

<http://www.germanistik.jp/austausch/frageundantwort.html> (ベルリン自由大学・ボン大学・ケルン大学への留学を希望する筑波大学生へのQ&A)

受け入れが決まったら、次はビザの申請をドイツ大使館でしなければなりません。平日の午前中しか受け付けていなかったもので、長野に住んでいる母親には始発で来てもらってビザの申請をしました。(実際には留学費用の保証書を発行してもらっただけで、ビザの申請自体はドイツに行ってから外国人登録局へ行きます。)この際必要になる書類については、ドイツ大使館のHPをよく読み確認してください。

### 3. 渡航

私の場合は、8月に行われているバイロイト大学の Sommer-Uni(筑波大学との提携校で行われている一ヶ月の語学コース)に参加し、9月からベルリンへ行きました。9月は一ヶ月間ベルリンで語学コースに参加しつつ、住所登録・保険加入・大学の入学手続き・銀行口座開設・インターネット契約・ビザ申請・携帯契約…等々の手続きを行い、正直とても忙しい一ヶ月でした。

#### 4. 寮について

私が住んでいたのはベルリンの南に位置する学生寮・Goerzallee でした。大学へはバスで20分ほど、時々徒歩でも通ったりしましたが1時間ほどかかります。基本的に留学生のみが住んでいる寮ですので、日常会話は英語の所が多かったと思います。私の同居人は皆「ドイツ語を勉強しに来ているのだから」とドイツ語で会話してくれました。男女共同の寮で、1つのフラットに6つの個室があり、基本この6人で共同のキッチン・トイレ・シャワーを利用していました。洗濯機は隣の建物の地下に5つだけ、乾燥機も2つだけ(専用のカードにお金をチャージして使用)。寮の地下にはバーがあり、金曜日・土曜日の夜はとても賑やかでした。

スーパーも近くにありましてし、交通の便も良く(町はずれではありましたが)快適に生活が出来ました。

#### 5. 大学での生活

授業は一週間に7コマが留学生の間では暗黙の了解(?)で限度となっており、空き時間に自由に勉強できるところが大変魅力的でした。図書館も快適で使いやすく、また大学構内にいくつもカフェがあり、くつろげるようになっています。ただ学生食堂(Mensa)の味付けだけは、なかなか慣れませんでした。

授業は主に語学コース、専攻の聴講、留学生用のゼミに参加していました。授業の様子については、聴講は日本の講義とそんなに形式は変わりませんが、学生が物凄く活発に挙手をし、発言をします。教授は結構わかりやすく話してくださるのですが、学生の質問が聞き取れず「今何について話しているんだろう…」となることがしばしばありました。またゼミでは、「発言しない、という事は授業に参加していないと同義」であり、討論が毎回白熱していました。真面目な生徒が多いという印象です。

#### 6. 休みのときの過ごし方

ベルリンには様々な国・民族の人が住んでいるので、自分とは異なる文化を持つ人に対しても理解があり、寛容な人たちが多くいる街だと思います。ベルリンマラソン、ベルリン国際映画祭といった世界的行事が開かれる場所でもあり、また博物館や文化遺産が多くあって飽きることのない街です。交通の便も良く、大変過ごしやすかったです。

ベルリンはカフェの街とも言われているので、カフェ巡りをしてみたり、天気の良い日は隣町のポツダムまで出かけたりにしていました。あてもなく電車に乗ってぶらぶらしてみたりもしました。バス・トラム・地下鉄は、学生証があればかなりの広範囲で利用することが出来ます。また、日曜日には「蚤の市」というフリーマーケットがベルリン各地で行われ、特に旧東ドイツ時代のもの(切手や本など)など掘り出し物を探すのが楽しいです。

## 7. 思い出

嬉しかったことは、日本で言えばお正月のような親戚が集まる一大行事にも関わらず、クリスマスにポーランドの友達が家に招待してくれたことでした。これがきっかけで宗教にも興味を持つようになり、後期は宗教についての授業も受講しました。カトリック式のクリスマスを直に体験したり洗礼式にも参加したり、貴重な体験でした。またベルリンはポーランドへ一時間～一時間半ほどで行けますしちょくちょく遊びに行っていました。

一番つらかったことは授業で意見を求められても何も返せなかったことです。「黙っていたら何もわかりませんよ」と言われ、全く上達しない自分の言語力に絶望しました。それでも、語学力のふがいなさについては努力すれば解決できることですが、気候については本当にどうしようもできません。1月は「観測史上 60 年間で最も暗い冬」と言われ、一ヶ月の日照時間の平均が 22 時間、あの時ばかりは鬱になりそうでした。太陽の光の素晴らしさ、大切さを学びました。これからドイツに行こうと考えている方は、冬の乗り切り方を考えておくことをお勧めします。クリスマス後～2月末まで辛く寒く暗い冬が続きます。

## 8. 成長したと思うところや学んだこと(大学の勉強以外で)

私は学生寮に住んでいたのですが、住人のほぼ全員が留学生なので、生活習慣や文化の違いでぶつかることが多々ありました。例えば友達を連れ込んで夜中にパーティーをすること、キッチンの使い方のマナーなど、共同スペースの使い方。どんな文化・民族の人にも悪意を持って接しないことが大事なことだと思います。また、話し合ってお互いの誤解を解き、お互いが気持ちよく生活できるよう努力することも大切だと思いました。

## 9. 留学を希望している筑波大生へのメッセージ

そんなに立派な理由が無くてもいいと思います。私の場合、そこに留学できるチャンスがあって、留学しない理由が無いと思ったので留学しました。ただ、外国で暮らすからには覚悟を決めなければならないこともたくさんあります。ですが、どんな理由でどんな目的であっても、人生の中で留学という挑戦は決してマイナスの経験には

ならないと思います。そして何よりも自分から行動を起こすことが大事だと思います。留学してからもそうですが、自分から動かないと何も始まりません。動いた結果、上手くいかなくても諦めなければ周りが自然と助けてくれたり、思わぬところから解決策が降ってきたり、良い方向に転がっていくと思います。

参考になるかは分かりませんが、もし迷っているなら、まずは相澤先生に相談してみることをお勧めします！

N.S.